

ユーリン月報

11月号



今年生まれたヒキガエルを一匹展示場で
飼い始めました。娘もあきらめた様です。



ガマのひとりごと

図面は何枚まで？

こんにちは、ガマです。

図面は何枚ぐらい書いてもらえばよいのでしょうかと、尋ねられたことがあります。納得できるまで書いてもらえばよいでしょうと答えました。

家という物は、これですと現物を指し示し、これをお建てしますと言える品物ではありません。

そこが車や宝石と違うところです。

お建てになる方からすれば、生活パターンや仕事や趣味を反映させようとすれば細部にこだわりも出てくるでしょう。身頃にぴったりと合った服をつくるにはオーダーメイドが一番良い様に、住む方の住み良い家は本来、注文住宅でないと出来ません。といって、施主が施工にずっと張り付いている訳にはいきませんし、家は現場生産で完成までいろいろと工程をふみ、時間がかかるという弱点をもっています。

だから、図面なのです。図面での推敲が重要なのです。

私は長年、住宅営業をしてきて、お建ていただいた家の間取りはすべて頭の中に入っています。それは、お客様と幾度も図面のやりとりをした上でのご契約であったからだと自負しています。お建て替えのお客様と1年半をかけて図面を決定したこともあります。図面としては、30プラン以上は提示しています。大幅変更ばかりではなく、細部の変更も図面に落とし込もうとするとそれがあたりまえなのです。

住宅屋としては、お客様との図面のやりとり程楽しい事はありません。変な例かもしれませんが、孫をあやしている様なものです。これが現場施工に入りますと、我が子を育てるのと同じ様に失敗してはいけないという責任がかかってきます。



後不費必有獲 (徳は知なりをり獲は有り)

株式会社 **ユーリン・ホーム**

〒710-1101 岡山県倉敷市茶屋町2092-5
TEL (086) 429-1255 FAX (086) 429-1343

岡山県倉敷市茶屋町2092-5 岡山県倉敷市茶屋町2092-5

幾多の図面のやりとりという過程をふむ事の良さは、図面で確認しなくても施工中の現場での間違いが一見ただけでわかるという点です。

また、お客様と感性を共有できていますので、お客様目線で家造りが出来るという点です。

図面は、施工業者が施主様をよく知る為にも、両者が納得するだけの枚数は必要だと考えますね。

我が家のペット

「ジュジュ」との思い出



今まで、沢山の動物を飼ってきました。ペットという言葉が定着し始めた頃、その語感にこそばがゆい違和感を感じる程以前から飼っていました。

記憶している動物は圧倒的に犬と猫ですが、手乗り文鳥の「ジュジュ」は鳥類の中で数少ない思い出を残してくれたペットです。

「ジュジュ」の母鳥もまた手乗り文鳥でした。小鳥屋さんでヒナ鳥を買い、育て、成鳥にしたのですが、たいしてなつかず、人が寄っていても鳥カゴの中でバタバタとしない程度の手乗りでした。ですから、外に出して遊んでやることもなく、何年か玄関先の下屋の梁につり下げたカゴの中で飼っているだけでした。

そこにある日、文鳥が飛んできました。やはり手乗りだったのでしょうか。母鳥のカゴの隣に新しいカゴをつり下げ水とエサを入れておき、入口をあけておくと、ごく自然につかまえることが出来ました。その文鳥がオスだとわかったのは、止り木の上でピョンピョンはねながら、さえぎったからです。それが「ジュジュ」の父鳥です。

2羽の文鳥は、同じ程度に人馴れし、同じ程度に体格の貧弱な番（つがい）でした。手乗り文鳥は成長期に人のやるエサが栄養不足なのか、親鳥に育てられた文鳥となら、ひとまわり小さく見えます。それでも仲が良いものですから、カゴの中に箱巢を入れておきました。

すると2ヶ月程して、箱巢の中からヒナの鳴き声が聞こえてきました。ところが1週間してもヒナの鳴き声がふえません。10日目におもいきって箱巢をあけてみました。卵はまだ6個あるのに孵った子供は1羽だけだった様です。赤っぽくて、やせて丸裸で、手羽のところに針の様な黒い羽根先が突き出ている状態で、眼はあいていませんでした。餌袋もあまりふくらんでおらず、親鳥もあまり熱心に育てていない様子です。

私は早速、藁巢に移し替え、粟玉をお湯でふやかし、ヘラでクチバシのところに運んで

やりました。ものすごい勢いで飲み込みます。

こうして、文鳥のヒナ育てが始まったのですが、私は弱々しい体格の親鳥を見ていたもので、この子だけは、たくましく、大きく育ててやろうと決心していました。

そこで、餌を粟玉だけですますのではなく、茹で玉子の黄身やフナ粉をまぜたり、小さなクモやガを入れたりして与えました。おかげでその子は、親鳥の倍もあろうかというほどの成鳥になりました。しかも、手乗り文鳥ではなく肩乗り文鳥となったのです。

親鳥が次々と死んでしまい、梁につり下げたカゴで「ジュジュ」を飼う様になり、出勤前のひと時が私と「ジュジュ」との遊び時間となりました。

カゴの入口を開けてやると「ジュジュ」がはね出してきて、ひとしきり、庭の木の枝から枝へと飛びまわります。もういいかなと思った頃、私が「ジュジュ」と呼びますと、飛んできて、私の肩の上に止まります。それから、肩から離れようとしません。新聞を読んでいる間も、パンを食べている間も、コーヒーを飲んでいる間も、肩の上なのです。パンクズを舌先に乗せて出してやると、肩の上でチョンチョンとはねて近づき、パンクズをついばみます。コーヒーを飲みながら唇をすぼめてヒョットコの様にしてやると、唇の中にクチバシをつっこんで、コーヒーをすい込みます。顔を洗う時も、歯をみがく時も、朝はいつも「ジュジュ」が肩にいました。少し激しく動いてみても、羽根をばたつかせてバランスを取りながらパジャマの肩にツメを強くたてて飛び上がろうとはしません。服を着替える段となり、右手の人さし指を肩と平行にさし出すと、「ジュジュ」は初めて肩から飛び離れます。それがカゴに入る合図だと知っていました。

人さし指をカゴの入口にもってゆくと「ジュジュ」は指から止り木に飛び移り、遊び時間は終わります。

でもその様な「ジュジュ」との遊び時間も3年程で終わりました。

ある朝、「ジュジュ」のカゴの入口をあけようとする「ジュジュ」を飲み込んで出られなくなった蛇がふてくされた様にカゴの真中でトグロをまいていたのです。

読後雑感

長島さん

今年のプロ野球、ペナントレースの終了と共に清原選手が引退しました。ニュースでそれを知った時、「そうなんだ」と思っただけで、何ら感慨はわきませんでした。その時、思い出したのは、長島さんの引退の時の事です。泣きました。タオルでぬぐってもぬぐっても涙がとまりません。唇がわなわなとふるえ、おえつが続きました。

「ひとつの時代が終わった」と実感したものです。

私は別段、プロ野球のファンではありません。それでも新聞を読む様になってから、毎

朝長島さんの打率と順位を確認するのを日課としていました。大学は中央大学でしたので神宮球場には時々足を運びました。70 年安保の時代で、紙袋にカンビールなどを入れていると、警察官から不審尋問をうけたものです。あの頃の学生は反体制的でしたので、神宮で応援するのは体制側の巨人ではなく産経アトムズ（今のヤクルトスワローズ）でした。

それでも、長島さんは特別でした。選手としては晩年をむかえており、以前の様に打棒もふるわなくなっていた事もあり、私のまわりのほとんどの学生は巨人が負けて、長島さんが打つことを願っていたものです。

長島さんは職業欄に「長島茂雄」と記入したといひます。それで世の中の人々が許してしまうのが長島さんでした。明るく、さわやかで、おおらか、邪気がなく、いつも熱い思いが伝わってくる。その思いは、今も私の中で変わひません。

長島さんのエピソードはいろいろありますけれど、私が好きなのは、「He lives in Tokyo.」を過去形にひなさいという設問に「He lives in Edo.」と答えたというものです。その様な発想は、私に全くないので感嘆するばかりです。

住宅関係の事で面白い話があります。北海道の住宅会社が3階建住宅のネーミングを「3番サード長島」にしたところ、長島さんの奥さんから、商標登録してあるので使用禁止ですとの電話があったということなのです。ほんと、伝説の人なのです、長島さんは……。

今回は、我が家の長島本を写真におさめておきました。さがせばもう少しあるのですが、とりあえず、目につくところにあるものを集めてみました。



千の夢話

振り回される事務員

こんにちは。B型の社長に振り回されている、AB型の事務員の千尋です。今回は社長の特集みたいになってしまいました。次は書くスペースがなくなっているかもしれません。

ヒキガエルもとうとう展示場に展示されることになりました。そのうちヒキガエルに机を乗っ取られるかもしれません。今月は図面を描くソフトの使い方が少し上達しました。ヒキガエルが餌を食べる速さにはかまひませんが、使いこなせるように日々努力します。

ブログ「親子で起業 奮戦記 ～帰りたくなる家造りを～」 <http://yu-rinhome.seesaa.net/>